

平成22年第6回議会改革検討会議録

日時 平成22年12月6日(月)

午後2時

場所 全員協議会室

出席 (議員) 1番 今村一正、2番 安藤春一、3番 筒井俊秋、4番 坪井武成
5番 水野 晃、6番 野崎隆子、7番 尾野康雄、8番 青山克己
9番 戸田久晶(座長)、10番 栗田昌子、11番 熊沢直紀
12番 柴田勝明、13番 谷崎正明、14番 野崎八十治

(事務局) 大森 浩、安藤真澄

(傍聴) なし

1 座長あいさつ

2 議題

(1) 議会中継について

(2) 研修について

3 その他

午後２時００分開会

座長 第６回議会改革検討会議を定刻の時間になりましたので始めたいと思います。本日の会議内容については、別紙で配布しています会議次第のとおりでございます。

それでは議題に入ります。（１）議会中継についてです。最初に、議会中継については、デジタル化に係るケーブルテレビのとよやまチャンネル放映に伴う機器整備費用を含めて、１１月２５日開催の全員協議会において、町当局から提案がされています。提案内容については、承知されていると思いますが、再確認の意味も踏まえて、今回、当局提案の要旨について別紙参考資料として提出していますので、確認の程よろしく願いいたします。

それから、合わせて５回行いました作業部会の報告が野崎部会長よりでありますので、皆様ご覧頂きたいと思います。

それでは、議会中継について、継続・中止について各議員の意見をもとめます。今回は、特に発言者の順位は指名しませんので、挙手して指名後に発言をしていただきたいと思います。はい、青山議員。

青山克己議員 前回お聞きしてから、たまたま二つのグループと接触する機会がありまして、今こういう問題が浮上していますが皆さんどうですかと言うことで、議会中継のことをお尋ねしたわけですが、年齢は５０歳から６０歳の方、人数は二つのグループで３０名弱の方にお聞きしたわけであります。

まず最初に「最近、議会中継皆さん見られておりますか。」とお聞きした訳です。そうしたら見ている人は１人もいなかったわけです。それでも一応ご意見を伺い知ると、「今の議会中継ライブで一日中やられても、そんなもん見てる暇なんか全然ない。」というお話の方がありましたし、「最初のうちは１、２回見たけど、今やっているのも意識したこともない。」というご意見を出された方もありました。中にはビデオで放映していただければということで、そのビデオの放映も編成して、平日の夜じゃなく日曜日の午後、それも最長でも２時間以内にまとめてくれと。そういうことをやっていただければ見ますよという意見もありましたし、「今、議会広報が出ております。私たち、あれを見るのが一番良く分かる」というご意見もございました。あえて議会中継をやって欲しいという人は、この前のグループの中では皆無でした。

有識者懇談会の中にも出ておりましたですね、やはりその費用に対する効果ですとか、町民の方々の中でどれ位波及してるかと言うことを考えて見ますとこの資料でもわかりますように 2.5%ですかという数字が出ておりますが、前回の菅直人の 1%発言でちょっともめたんですが、やはり 2.5%という数字は大きい数字じゃないと僕は思います。興味があると見ていただけるかもしれませんが、ほとんどの方はそれほど意識していないと僕は判断いたしました。

この前町民との協働のシンポジウムが社教センターでありましたが、あの中で講師の先生も言われましたけど、いろんな連絡事項も広報で流すと、しかし関心がないとほとんど見ない、読まないという住民の方がほとんどだと言う事でございますので、僕個人の意見といたしましては一応中止という形で様子を見て、あえて町民の方から「何で止めた。」とか「もう一回やってくれ。」という声が大きくなれば再度検討して中継をしていく方法がいいのではないかと思います。僕からは以上です。

座長 坪井議員。

坪井武成議員 坪井ですけど。私も今青山議員言われたように、ある程度の方と接触する度に聞いておりました。聞いてどんなもんだろうなと思い聞いてみますと、やはり今言われたのと内容よく似ております。よく似ておりますが、私が聞いたほとんどの人まず見てみえないです。それ前提に申し上げます。でも中には私はこうして試している人がいました。それは、ビデオで撮っておいて、例えば坪井さんなら坪井さんがやる部分だけ見てると、全体はとも見れません。さっきお話あったんですが、「そんな 1 日やってるやつをとてもしゃないけどそんな暇ない。豊山の議会見てても面白くない。」

またある方は、こういうことを言われて、なるほどなと思ったんですけど。お金の話もしたんです。その当時、3,100 万でしたから、最近の人に話するときには、約 6,000 万くらいかかるらしいよと、データ切替にという話もして。「そんなにやっぱりかかるかね。」と、それならそういうお金は、例えば一般の 8 チャンネルでやってる放送、それはやめて欲しくないから、そちらのほうに 180 万を入れてもらってもいいじゃないか。あるいは町も財政厳しいだろうから何か他のほうの關係に使ってもらってもいいじゃないかという

意見がありました。従って私も今の時点では、もちろん先程も言われたように視聴率の低いこともありますし、今回は見合わせて一時中止にして様子を見ていったらどうだろう。と私は思います。以上です。

座長 はい、栗田議員。

栗田昌子議員 今、お二方がおっしゃったことはみんなそれは事実だと思います。最初にこれを始めたときは、地域情報化検討会というのがあって、そこから一番の要望として提案がありました。それが議会中継だったんですね。どうしても議会中継は第一にやってくれということだったと思いますよ。そして2番目に行政報告と。私たちが説明を受けた時は、行政から地域への情報提供とか、行政と地域との情報交換とか、住民間の情報交流だとか、すばらしいこのケーブルテレビをつければですね、こういうすばらしいことが出来るんだと言われて視察に行ったりもしました。そういう所は局も持っていて確かにすばらしいことをやってたんです。じゃあ私たちのところでもそうしようと言ったときにお金がかかる。一つ一つものすごくかかるものですからそれは出来ない。じゃあ何のためにと問うたときに、これは災害時の電波障害のため。それでつけるんだと言うふうに聞いたわけですよ。賛成して失敗したなと思ったんです。賛成してしまったんですから。すばらしいことが出来ると思って。ところがそうじゃないんだということがわかった時に、私はその時点で、もう少し調査すべきだったと反省をしたんですが、とにかく最初は議会中継をやってくれと言うのは、検討会からの第1の要望として出ていたと思います。やはり1回失敗して夜放送したときがありますね、あれが良かったということでしたね。でもその後、皆さんから聞く暇もないし、一時は、今の国会は駄目ですけど、町の議会よりは国会の中継がいいと言われたこともあったんですけど、私たちの質問の内容というか、そういうものにも問題あったのかなと言うことも考えたんです。いろんなことを考えた時に、なるべくなら本当は情報公開ですから、皆さんに希望されるときは見れる状態がいいと思うんですが、経費との関係もありますし。住民の実態ですね、最初はそう希望していたにもかかわらず、見放されたと言う感じもありますからその辺でちょっと迷っております。

座長 はい、野崎隆子議員。

野崎隆子議員　まず一番最初になんですけど、議員で、今日、検討会議で議会議中継の継続をどうするかということについて話し合うってということが決まってるのに、11月25日の臨時議会の後で、中止の方向だということを町が方針として出しちゃうということは、今日の検討会議を何だと心得てるのみたいな。議会軽視もはなはだしいと言う思いが私の中にありまして、あの発表自体は町がどう考えてるは別にして、議長サイドで、今日までは発表するなみたいなことをやるべきだったんじゃないかなというふうに思うんですね。それは前置きで置いて本題に入りますけど、今名古屋市も含めて、議会は何やってるんだと、議員は何やってるんだと言うことで、住民に姿が見えてこんど。議員定数を減らせと言って、傍聴の方が沢山見えたときも、遊んでる議員は必要ないから減らせということだったと思うんですね。それは議会の姿が住民の中に見えてないということで、名古屋市でも本会議だけではなくて、委員会までテレビが入ったとぐらいの公開してますよね。全国的に見ても議会は公開の方向、それが流れだと言うふうに思うんですね。たかだかやって6年なんですけど、止めてしまうということは議会のそういう時代の流れに逆行することだと思うんです。先程も誰か言えわれましたけど、一番最初の平成16年の9月の議会が、手違いがあって放映がおかしくなったので、夜ビデオ流しましたよね。それは本当にめちゃくちゃ評判が良くて、「あれをやって欲しい、やって欲しい。」という声が出たんだけど、議会が話し合ったときも、一度決めたことはころころ変えるなみたいな事で結局ビデオで放映して、夜見やすい時間に流すということは没になってしまいましたね。見てもらうのを増やすという努力を、議会もして来なかったし、町もして来なかったと思うんです。アナログからデジタルに切り替えるのに3,000万円で、緊急放送流すのに3,000万円でこれから6,000万円かけてやってくと。そういう3,000万円のお金はどんどん使って行っても、たかだか議会の180万円は切ってくという、やっぱりその流れに逆行してるっていう点でおかしいなと思って。見てる人は今確かに少ないかもしれない。でも私が聞いた中では、「議会での答弁とか、一般質問のやり取りにも緊張感がこれでなくなっちゃうわね。」というような意見を私は聞きました。見てる人はそんなに多くないですよ、本当に。やっぱり公開していくと言う原則に則って

私は中継は続けていくべきだというふうに思うんです。もともと年間で4日間しか放映してないわけだから、見る人が多いとか少ないとかの問題ではなくて、町の姿勢として議会を公開していくかどうか、町民の方が見ようと思ったときに見れるかどうか、それは住民の議会何やっとなるかという知る権利だとかいろんな方法はあるけれども、議会中継と言うのは住民の知る権利や知る権利をやっぱり保障していくもので、中止にしてしまうということは、そういう権利を奪うことだと思うんです。だから私は継続の意見なんです。逆に私たちがどこかの市町の議会で、この問題についてどう取り上げているかと言ってみたいときに、インターネットでライブではないんですけど見れますよね、1週間とか2週間とかずっとやってるので。発言から答弁までインターネットで見ることが出来るんですけど、そういうことやってらどうか。今やってるのは本当に1日だけなので、仕事もあつたりすれば見れない時間もある。逆にそういう見れる条件を増やしていくということを提案したいと思います。以上です。

座長 他に、尾野議員。

尾野康雄議員 僕は結論から言えば議会放送は止めてもいいという考えです。何故かという、広報委員会に入っていて、一般質問の答弁を議会だより載せる広報委員会のメンバー5人見えますけど、栗田議員は委員長で、今村議員は副委員長でほんとに熱心で、時間が足りないくらいいつも議会だよりのことやってますね。豊山町の皆様へ配布するんですけど、あれだけ自分たちが一生懸命、数字じゃなく円グラフにしたほうが見やすいとかそういうことをやって、豊山中に配って、あれが議会のことは一番良く知ってもらえるんじゃないかと。それで、直接聞きたい人は傍聴に来てもらえば十分見てもらえるし、インターネットにそういうことが載ってるかははっきりしませんけど、それだけ情報を公開すれば十分だと思います。そういう点から止めてもいいんじゃないかな。以上です。

座長 他に、栗田議員。

栗田昌子議員 今、尾野議員十分だとおっしゃったから。十分だとは私は思わないんであって、ただね、費用がね、こんなにかかればいいと思ってるんですよ。費用の問題があるもので、それに対しての効果といいますか、

費用対効果の問題でそれで考えちゃうんですよ。私は十分だとは思わない。どんどん出すべきだと思うし、それこそインターネットで今、野崎議員おっしゃったように、県議会なんかも見られるし、いつもいう犬山の議会なんかも見れるでしょう。ああいう手段は取れないのかと私はむしろ思ってるんですよ。ケーブルテレビよりインターネットで公開する。クリックするとライブ出てきますよ。質問も全部わかりますよ。犬山市は一問一答方式でこんなふうやってるのかとか、他の議会のことがいろんなことがわかる。もうその時代じゃないですか。どっちかと言えば、ケーブルテレビというよりインターネットの時代、そっちのほうに切り替えていったらいいかなと思います。

座長 野崎八十治議員。

野崎八十治議員 作業部会ですとか、それから個人的にもいろいろ調べたり、あちこち聞いたりした部分もあるんですが、今言ってみえる費用の問題なんですけれども、情報公開と費用との兼ね合いで言いますと、例えば、今は豊山町は8チャンネルを継続するよといってますので、撮影をしてその場で中継するのが一番安くあがります。それは8チャンネルという中継基地を持ってるから出来ることで、それが一番安上がりなんですよ。例えばビデオで撮るにしたって誰かが撮影しなきゃなりませんので、それを今度は町のホームページで流すよということのほうの方がむしろ金がかかるんです。一番安い方法がライブ中継なんです。中継放送が一番安く上がるんです。映したのをそのままつないで8チャンネルで流すだけですので、編集もしなければ何もみませんので一番安く上がるわけです。それはビデオ放映というのか映像を流す場合のこと、それ以外では会議録などをホームページで流すことと別の話なんです。そういう意味で言うと、他の方法で映像を情報公開していくと行政や議会はどういうことをやっているのか、議会は行政との間でどんな議論をしているのかということを情報公開するということから言うと、仮にビデオテープなりDVDを撮るにしたって、町が、議会事務局が保管をして、依頼があれば貸し出しをしたり、公開をしますよという場合でも誰かが撮らなきゃいけない。そうすれば機材も要りますし、人件費もかかる。それをDVD・CD等で編集しようと思うと編集にお金がかかる。今のような中継よりもお金がかかるわけです。そう意味で言うと今の方法が一番金がかからない。そ

ういうことですよね。ですから議会の公開していきますよと。公開することが行政の、議会の流れだというときに最低限必要な映像を残すという作業すら、これを止めたら出来なくなるんじゃないかなと。例えばこの他の委員会の公開ですとか、それから一問一答も含めてですけれどもやろうと思いますよ。例えば一問一答やると1日では済まないの、前のときは1日半ぐらい費やしたよ。そうすると会議録も多くなるし、時間も1日半なのでテープも必要になる。そうすると今の予算では足りないからもっと金がかかる。

それから委員会公開です。部屋が狭いですから、今の委員会室は。じゃあここを使ってやろうかと考えるとしますと、この配置では委員会傍聴を許可しますよと言ったって、せいぜいここは6人、今回検討会議やるときも6人しか傍聴出来なかったわけで、この部屋でさえですよ。そうすると、集音マイク等も含めて、部屋を全員協議会室も委員会室もある程度改修しないとね。本会議場もそうなんですけど、テープやビデオで撮ったときの音声をきちんと録音して、みなさんに公開することになると、自信を持って公開できるような音質ではないと言うことも実はあるんです。従ってそうやって見ると、そういう意味で一問一答ではないんだけど、今も一般質問の場合は真ん中行って、あのマイクが一番質がいいそうなんです、自席のマイクは質が悪いので声が割れたりしてテープがきちんと取れないとか、テレビで放映しているときも聞き取りにくいとかも含めて、今の方法を取ってるわけですけれども、つまりそういうようなことをいろいろ考えて、そうすると今8チャンネル継続をする豊山町が、議会中継すらやらないよと言うことは、いかに閉鎖的で行政や議会の議論や姿勢を隠そうとするのかなと言われてもしょうがないんじゃないかと思うんです。178万5千円が費用対効果ということ言われますけど。僕はそういう意味で言うと決して高くはないし、いまどき当然じゃないかなとすら思ってますので、それ以外のことやろうと思ったらもっと金かかるんですから。その以外の方法でやろうと思ったらですよ。もっと本当はホームページでビデオなんか流せるようなふうにしていってるわけなんです。他の自治体は。

いろいろ言いましたけど。今回こういう機会を通じて僕自身もいろいろ勉強させてもらったんですけど、そういう議論は実は作業部会ではそんなに議

論にならなくてですね、むしろ町は８チャンネルやるのかやらないのか、やるとテレビ中継でもっと金かかるようになるんじゃないのか、どうしてもデジタル化することによってね。そういうことの心配が先で、しかし、結果として、金は従来と変わらないと言うことなので、私はせめて議会中継ぐらいは継続するべきではないかと申し上げております。

座長 熊沢議員。

熊沢直紀議員 今、議会が閉鎖的みたいな言い方をされましたけど、元々の原因は、今のザ・シーンの関係でCATVがこれだけ豊山全体に普及したということにあるんです。CATVを普及したら、それなら何をやろうかと言うことで、議会中継もその中でこういうご時勢だから、ちょっとでも皆さんに知っていただくようにと言う事で始まったのは皆さんも知ってみえると思います。何が閉鎖的だと言われても、私は閉鎖的ではないと思ってるのであえて言うけど、議会傍聴だって開いた時には来てもらえばいいし、議事録だって置いてあるし、どなたでもその気があれば来て見てもらえる状況にしてあるのに、閉鎖的ということは一切ないと思う。何故こうなったかという、CATVを敷設したからそれをやりただけで、他の市町でほとんどやってない中で先駆的にやってる実験みたいなものだったけど、ここへ来てやっぱりそうかという事で、傍聴に来る人だって関心がある時は一杯になったことも１回や２回あるけど、ほとんどみえない。だから皆さん関心があったって時間がないから来れないとか、いろいろ都合があるだろうけど、時間ある人でもわざわざ傍聴に来る人ないのに、何で知る権利ばかり主張してこちらがわざわざやらなきゃいけないことなのかと私は思うし、CATVで流すのもどちらでも良かったんだけど、どうせ使うならということで賛同してきたんだけど、関心あるなら来てもらって、議事録見てもらえばいい。それを敢えて、みなさんにお知らせしますというやるやり方は、私は好まない。元の状態に戻るだけで現実にオープンにしてあるんだから。いつでも傍聴に来て見てもらえばいい。ケーブルテレビの件は止める意見が多ければそちらに賛同します。

座長 柴田議員。

柴田勝明議員 全く熊沢議員と同じような意見でございます。傍聴にしたって

今日だって検討会議あるのに誰も傍聴いないじゃないか。こんなもんいつまでももたもたやってても一緒だと思う。私が議長になったときには、このケーブルテレビの放映と言うものには頭から反対だったんです。熊沢議員が言うようにザ・シーンや高速道路が出来て電波障害が起きるからとかいろんなことが出てきて、試しにやってみようじゃないかということで始まって、いつの間にか企画にはまったような。実際これを見てもらってもわかるように「必ず見る」は 2.5%ですよ、これ。まるっきりゼロじゃないか。ゼロに対してまだやるのか。そんな討論する必要ありません。さっさと切るなら切らないと、中止なら中止でいいから早いとこ決めなきゃいかん。今日だって傍聴に必ず来ると思ってた肩透かしもいいとこだ。関心のある人が 2.5%の中にいたら一人くらい来るんじゃないの。だからこれは完全に中止と言うことで結論を取ってもらえばいいと思う。長くなっても同じことだし、作業部会を困らせるだけだし、作業部会の人は何も言えない。ただこうがいいなというだけで結論も出ないようなところで、いつまでもやってる意味ない。

座長 はい、ありがとうございます。他ありませんか。副議長。

谷崎正明 今日は討論会ではないんで、一応皆さんの意見と言う事で、栗田議員が言われた町民の皆さんのご意見をどのように反映出来るか、皆さんもご不安をお持ちであるかと思います。結論的には議会放映がいいのか悪いのか、私は最初は確かに良かったと思います。皆さんもご存知のように。ところがどんどん悪くなって今止めようというコールの方がほとんどです。今青山議員言われたように、私も今日の議題について何人かに聞いたけど、見てると言う人はほとんどゼロです。私の身内も見えてないので非常に恥ずかしいんですけど。今回この時間だけは見てよとか、頼んで見てもらってる状況の中で、甚だこれが町民の為になってるのかと言うことについては、私は議員代表として出させていただいている皆さんの意見を聞いてきてここで述べさせていただくなら、現状でやるなら止めてもらったほうがいいと。やるならよほど考えてやらないと、14,000 人の町と 250 万の名古屋市とどうだと比べること自体もおかしいんであって、14,000 人は 14,000 人の行政のあり方が全国的にいっぱいあるんで、それをインターネットで見るなり、うちもインターネットでどんどん発信していただいているので、インターネットをどんどん見る

時代にもなってますから、皆さん見る人は見られる、特に若い人は講演よりインターネット見られる方が多い。これから益々そうなるんじゃないか。だからむしろインターネットに力入れていただいたほうがいいというのが、私の今日の意見でございます。皆さん一人一人言ってくださって最終的には議長まとめて下さると思いますので、長々としゃべって申し訳ないので終わります。以上です。

座長 筒井議員。

筒井俊秋議員 今、谷崎正明副議長言われたように意見をまとめて下さい。もう大体雰囲気的には同じような話だから、もうまとめる段階でお願いします。

座長 今の発言についての・・・はい、野崎八十治議員。

野崎八十治議員 2.5%はゼロみたいなもんだという意見がありましたので、2.5%はやっぱり2.5%で、14,000人の町民の比較で言ったら社教育センターのホールを満タンにする人数ですからね。それは単純比較ですけど。それ位の大事な数字ですよ。来てくださって言っても来ない数字だからね。

座長 多数のご意見非常にありがとうございました。それぞれ意見も出ましたので、ここで発言を終結し、議会として「議会中継について」継続か中止か意思を挙手によって決定したいと思います。よろしいでしょうか。

(異議なしの声多数あり)

では始めに、「議会中継について」継続に賛成の方挙手を求めます。

(挙手数を確認)

ありがとうございました。

次に「議会中継について」中止、または一時中止に賛成の方の挙手を求めます。

(挙手数を確認)

ありがとうございました。

報告します。「議会中継について」継続 3 名、中止 10 名です。よって議会の意思として「議会中継について」は、中止と決定いたします。

（「廃止じゃないんだよね。中止なんだよね。」の声）

議会中継は「中止」と決定いたしました。引き続き議題の（２）研修についてに入ります。今年度の 2 常任委員会の視察については、9 月の定例会の時に 2 常任委員会において、県営名古屋空港から J A L が撤退、F D A の就航をうけて、空港を活用したまちづくりをテーマに、静岡空港の現状等について静岡県の牧之原にあります富士山静岡空港、F D A 本社の訪問をもって実施する。これが 2 月 1 日、2 日ということで確認されております。

去る 11 月 15 日開催の第 5 回作業部会においての確認は、次年度以降（議員改選後）の議会研修のあり方について、本検討会議に課題として提案し、各議員から意見提出を求めることで確認がされております。

なお、次年度の視察研修予算については、事務局からこの前報告ありましたが、予算額確保の観点から本年度と同様の内容で予算要求案を当局に提出しています。

別途、作業部会においては、野崎議員の報告の最後にありましたが、次年度以降の議会改革課題として、一問一答、委員会の公開、議会基本条例の制定、住民への議会報告会、意見交換会の項目が挙げられましたことも併せて報告いたします。

それでは「研修について」各議員から意見を求めます。先程と同じように、発言者の順位指名はしませんので、議会中継と同様に挙手し、指名後に発言して下さい。

はい、青山議員。

青山克己議員 要するに議員から提案して、視察地を探していくという事ですか、今提案されたことは。今は 2 常任委員会が合同で、近くにこの研修の目的にあったら探してもらって行ってるんですが、それぞれ探して行くということになると、別々に行くということになるという方向をこれからは取って

いくわけですね。

座長 だから意見を言ってもらいたいのので、視察研修は来年は予算ももう取ってありますが、今まではほとんど事務局任せでまちづくり等の関連で何処か探してもらってということでしたが、もっと自分たちはこういうことを勉強したいからここに行きたいということを書いてもらいたい。

青山克己議員 それはわかったんだけど、今までは経費の問題で2つが一緒に行って初日はこれ、後はこれというふうに来てきたわけですけど、そういうことになる絶対行かないといけないわけじゃないということはわかりますが、要するに2つの委員会が行くということになると、提案された場所が全然違ってたとすると、それぞれに行くという方法をとっていくということで理解すればいいですか。

座長 そういうふうにして欲しいという意見を言ってほしい。

(発言多数あり)

(「自分の意見を言って下さいと聞けばいい。」の声)

はい。野崎隆子議員。

野崎隆子議員 テレビの放映については結論出すけど、研修会については結論出さずに言いたいこと言ってくださいでいいんですか、今日は。

座長 今回の場合は、22年度はもう決まっているわけですから、来年度からの方法を皆さんからこうやったほうが良いという意見があったら言ってほしい。

(発言多数あり)

座長 栗田議員。

栗田昌子議員 来年度の予算要求を今年度と同じ額で予算要求をしてると聞きましたが、だからそうするともっと増額を求めることも出来るということですか。

大森事務局長 今、議長が言われたのは、今年度につきましては、既にお話し

ていますように、2 常任委員会として静岡空港の方へ視察ということでございまして、来年度につきましては、予算措置というのが必要ですので、現状と同じような予算要求をしていると、あくまでも予算確保ということです。次年度以降の研修のあり方について、議員各位の意見がございましたら、次年度以降の参考ということで意見を出していただくということを考えているということでございます。また特段なければ、来年改選後、新しい議員の中で協議していくというような場合、参考になるものがあれば出していただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

栗田昌子議員 わかりました。私どもはここでなんだかんだ言うよりも、今度は静岡に行くんですから、改選された後にされたほうが言いと思います。

今村一正議員 作業部会の報告書にも座長のほうからあったように、一番最後に今後の課題であるということで4項目挙げられたと。だからそれと同じような意味で、議会の研修についても来年度以降で、一度新しいメンバーで考えたほうがいいよという課題、いわゆる申し送りみたいな感じで、来年こういうことをやったほうがいいよ。その中で、今までの長い経験の間で、これはこうしたほうがいいよというのがあったら、それも付帯して、従来の議員からこういう意見が付帯されておりますというのも考慮に入れて、新メンバーで、こういうことも、一問一答についても、研修会についても検討を継続してやって欲しいという申し送りでそれを作ったらどうですか。ここで決定しても、今年度の分は決まってるわけだから、今更F D Aに行くのを止めてよそへ行くのもね。僕らは4年しか経験してないし、皆さんは長いこと経験して方みえるから、やっぱり委員会視察はこういうふうにやったほうがいいという意見があれば、それも意見として聞いて、結論出すんじゃなくて、その意見を集約して、来年度以降の人に一つこれをお願いしますという形で、作業部会で出した結論も含めて、この4項目も含めて、議会改革等という名前付けてもいいし、その中の項目に入れて、その中の一つに常任委員会の視察研修についても入れて検討したらいいなと思うから、結論は無理だからね。そうしたほうが言いと思います。ただワーワー言うだけだったら意見は止めた。結論出ないのに。以上です。

座長 野崎八十治議員。

野崎八十治議員 議会改革の中の行政視察については、先程青山議員のほうから話もありましたが、例えば、2つの常任委員会もしくは2つのに常任委員会にまたがるような視察目的の設定をして、事務局ちょっと探してくれないかという方法でやられてきたことが多かったと思うんですが、それだと議員個々が豊山町の行政に活かすための視察として税金使って行くわけですから、そういう目的意識をきちっと持って行ってきたかということと必ずしもそうではないんじゃないか。したがって目的意識をきちっと持つために、それぞれの皆さんが自分が勉強したいこと、視察して行きたい所をきちっと探す。豊山町の課題が何かというものがなかったら本来目的地も探せないわけです。そういう課題が見つからなければ、別にあえて行政視察に行く必要もないわけですので、そこまできちっと行政視察とはなんぞやということを、それぞれがどれだけ認識出来るかということだと思います。行ってきたら、みんなで一致したらこのことは豊山町にとって大事だから、行ってきたら行ってきたできちっと行ってきた成果をみんなで確認する。これは栗田議員いつもよく言ってみえたことなので、最低限そういうことは、それぐらい議会は確認しておくべきことだったんですよ。作業部会ではね。そういうきちんとした議論はしませんでしたけど、ここ研修と書いてありますけれども、議会は研修というよりも行政視察ですよ。行政にどれだけ活かすかという行政視察なんです。したがって研修という意味ではいろいろセミナーですとか、いろんなものあるじゃないですか。本も自分が議会活動をするために参考資料買ったりするわけですけども、それは今流に言うと政務調査費。でもここは政務調査費はやってませんけれども、行政視察ではなくて、例えば政務調査費みたいなものに切り替えて同じぐらいの費用、今行政視察で4、5万円ですか、一人。4、5万円の予算が組んであると思いますが、個々に行政視察もそういうセミナーやいろんな研修会なんかも、講演会も、その範囲の中で個々の議員が4万円なら4万円の政務調査費の中でやって行くと。しかし何に使ったかが今いろいろ問題になっておりますように、情報公開できちっと報告してね。いろんなことが考えられるわけです。考え方としてはですよ。我々も任期あと少しですけども、そういう認識をきちっと持つことと、それから来年度の選挙以後ですね、当選して議会に出てきた人たちの間でも、せめ

て僕はそれぐらいの認識を持って、予算は組んだけれども行政調査に使うのか、政務調査費みたいな形でやるのかは別にして、そこから本当は出発して欲しいと思います。ちゃんと予算組んで使ったら、使ったお金はきちっと情報公開して、何に使ったかを確認出来るような体勢を作るということです。

そういうふうに僕は認識をして今回の作業部会の報告をしたつもりなんです。

熊沢直紀議員　きれいごと大分言われたみたいですが、基本的にはそういうふうなことなんだけど、現実はどうじゃないんだわね。今までどこ行きたいかの意見を誰も言ってきたことがないし、聞いたことない。私は委員長何度もやらせていただきましたが、現実はそのまんまです。結局は事務局におんぶに抱っこになってるケースがほとんどであるし、今までも今でもそうかも知れないけど、だから事務局も相当頭を悩ましながら、現状に合わせた問題点を考えながら先進地を探していただいて、予算を消化してきてるという状況なんです。毎年予算だけは、ついて回りだから、予算が委員会の費用としてこれからも申請はして行って欲しいし、議員からいろんな意見といってもそんなにこれからも出てこんと思う。それぞれの時代に即した問題点の先進地を探すといっても、個人的にインターネットで探す人もそうおらんし、きれいごとはいくらでも言えるけど、現実はどういうふうで、予算を立てて、予算を消化すると。その中で局長が苦勞して段取りを日にちまで設定しながら、それも仕事といえば仕事なんだから、そういうことで行かないより行ったほうが何らかの中身はあるかと思うし、どこに行くにしても。成果があったか無いかはそれぞれの視察地にもよるし、内容にもよるし、みんな総合的に絡んでくることだから、意見ある人はどんどん言ってもらえばいいし、今まで一度もなかったのはおかしいのになんで今頃になって言うという反発感もあるんだけど、あれば言ってもらえばいいし、なけりゃ事務局にお任せしないとイケないし、毎年どこであろうと委員会視察はやるべきだと私は思う。きれいごといろいろあるけど、意見なかったら無しにするのはおかしいと思う。

（「報酬の中で自分で行ってきたっていいんでしょう。

予算組まなくても。」声）

座長 栗田議員。

栗田昌子議員 やっぱり野崎議員がおっしゃったことはきれいごとじゃないと思うよ。視察と研修とか調査とかあるわけなんですよ。私くし、ここに先程メールで頂いて見てたのがあるんですけど、議長にも先程お話して、ただ 1 月はすごく忙しいから迷ってて、もう明日とか締め切りになってるんですが、安い費用でいけるところ、研修ですねこれは、視察ではなくて、滋賀県のところでこれはみんなで行っていいのにといいながらあるんですよ。だからこれも一つの手だと思うんですよ、みんなでこういう所で研修を受ける。まちづくりとか、そういうテーマです。あるいは予算とかね、予算のはまた来年になるんでしょうけど。予算のことを 2 つほど、市町村議会議員研修ですよ。そういうのがあるんです。私はこういうものにみんなで参加するというのも予算とってもいいんじゃないかと思っているんです。これから。

座長 今村議員。

今村一正議員 正直言って先程熊沢議員の言われた、今まで誰も言ってこない。だからいかんもんで、それを見直したいんですね。今までそれはよしとしてたと。それは全くもって議会の主体性とか、議員の主体性なんかはないわけだから、正直言って私は野崎議員とも意見一致するんだけど、そういった意味ではね。視察ありきって言う、視察は 1 年に一回必ずやらなければいけないという前提条件というのは完全に無視しちゃってね、私の意見ですよ。各委員会が年度初めに、例えば新しい年度の場合役選ありますけど、5 月の臨時会から 6 月の議会の間にその委員会が決まったら、委員会のメンバーで打合せをして、今年はどうしようかということ、長期的な考えをそこで打合せをして方向付けをして、実施するかしないか、するとしたら何について研究しよう。福祉建設についてはこれについてやろうとか、教育についてはうちの課題と合致するようなところを探そうとか、探すのは事務局に探してもらえばいいわけですから。こういうところを一回探してくれということで。時期については別に秋にこだわる必要はないということで。いわゆる今までやってなくて、3 年間で行ってきたことは、反省会もされてないし、視察をしてきたことは、自分たちの施策だとか、町の提案に対してあまり活かされてないということが多いもんだから、だったら自分たちでこういう問

題のところに行ったらどうかというようなことを提案しながら、委員会で主体的に動いていったほうがいいなという気持ちで私は是非やりたい、やったほうがいいという意見です。そう思っております。

座長 谷崎議員。

谷崎正明議員 先程、今村議員が４年間だと言われて、私も野崎議員も長くこの場に座らせていただいておりますが、視察もいっぱい行かせてもらってます。筒井議員がこの間、視察に行ったところの状況を一般質問にされました。確かに一般質問で取り入れるとか、いろいろ視察したものを、議会に又地域に反映しなきゃ何の意味も無いんじゃないか。確かにおんぶに抱っこということが、私も反省もしておりますけれども、局長並びに議会事務局に大変ご迷惑をかけてる状況で、私はあえて、それに慣れてずっと行くという格好が多かったように思っております。そういうのは今の時代背景には合わないし、特に議員・職員には厳しい目が、全国的に言われてる通りですから、今後の視察というか、政務調査費にするかは別にいたしまして、委員会自らこういうものを打ち立てて、全部こういうふうに行こうというものを作って、事務局と相談していく。事務局が作ってもらったやつに乗るなんて、ちょっと議員にあるまじき問題だと常々反省している状況なので、次回からは、また私が出てきたらいいんですが、次回からはそういう形で研修なり、政務調査費組んでやっていただくなり、いろいろな形をとっていただければというように思います。今までの状況からは脱皮していただきたい。改革していただきたいと思っております。以上です。

座長 野崎八十治議員。

野崎八十治議員 どうしてここまでこういう話をするかということになると、煎じ詰めた話ですけど、公費使っていくからなんです。そういうことなんです。したがって選択肢としては報酬もあるわけだから、自分たちのやりたい研修や視察、その範囲内でやってくださいと。一人で行こうが二人で行こうがみんなで行こうがいいわけです。あとは報酬の額が妥当かどうかの話だけで、そういう認識は持つといってもらわないといけないと思いますよ。

座長 先程から皆さんの意見に出てましたように、今後の議会改革の課題として、今もいい意見が出ました。次年度以降、改選後になりますけど、今日の

議事録をもって、新しい議員になられた方で確認してもらって検討するという
ことで、申し送りとしたいと思います。

（「賛成。今村議員の言われたように申し送りやって下さい。」
の声）

今村一正議員 ただね、議事録を申し送るんじゃなくて、きちんと議事録ま
とめて項目を書いて、要するに、議員としての、議会としての申し送りとして
きちんとやったほうがいいと思う。議事録は好きな事、今いったものをその
ままはまずい。先入観が入ってくるから。

（「よくまとめてきちっとやりますということですから。」
の声）

座長 まとめます。先ほどから言われてます議会の研修、一問一答とかですね。
委員会の公開、議会基本条例の制定とか、住民の議会報告会、意見交換会そ
ういうことを、今後の議会の改革の課題として次年度以降、議員改選後に申
し送るということを確認しました。

私の提案ですけれども、今確認しましたように、議会改革の諸問題沢山あ
りますけれども、議会の改選後、次期の議会に申し送るということですので、
議会改革検討議会と作業部会の役割を終了したものと理解いたします。本議
会改革検討会議と作業部会はこれで解消したいと思いますので、皆さんご賛
同お願いしたいと思います。野崎作業部会長、本当に大変苦勞様でした。

野崎八十治議員 議会改革の作業部会作りますって、ポンって作って、議運の
メンバーの中から代表ですとって5人集まって、さて何やるかから始まっ
たんですが、議会としてあるべき姿やどうするかという話ですので、無事終
わりましたのでありがとうございました。

座長 では3、その他に入りますけど。

事務局ありますか。

事務局 ありません。

座長 その他ございませんか。

(「なし」の声)

議長 以上を持って、第 6 回議会改革検討会議を閉じます。お疲れ様でした。

午後 3 時 1 0 分閉会